柏崎市立図書館（ソフィアセンター） 司書

小林　俊夫

KOBAYASHI　TOSHIO

1972年　長岡市出身
1996年　柏崎市役所職員に採用、
　　司書として図書館に勤務

柏崎の図書館の歴史は明治38年9月、「私立柏崎図書館」が開館したことに始まる。現在の建物は1996年、展示ホールや映像機能、バリアフリーに対応した施設として、ソフィアセンター（愛称）がオープン。開館と同じ平成8年に司書として採用されたと話す、小林俊夫さんは現在、館長代理・資料係長として業務に取り組んでいる。

司書は、図書館において資料の選定や発注、受入、分類、目録作成、貸出業務、読書案内などの全般的な業務を行う専門職。ソフィアセンターでも本や雑誌、CDなどの貸出し業務の他、資料の収集や整理、図書館資料を使った調査・問い合わせ（レファレンス）への対応といったさまざまな業務がある。特に柏崎市が力を入れているのは、子どもの学習活動支援や読書習慣作り。例えば、赤ちゃんに絵本をプレゼントして、読み聞かせによる親子のふれあいを深める「ブックスタート」。専門スタッフを各小学校に派遣して図書室の整理、読み聞かせやブックトークを行う「学校読書支援員の巡回」。本を車に積んで小学校を定期的に回る「移動図書館」などを行う。

また、柏崎・刈羽地域に関わる資料を集めて活用していくことは大切な業務の一つ。「郷土の記録と記憶を後世に残すことは図書館の重要な役割」と感じていた小林さんは、10年ほど前から少しずつ、郷土資料、地元紙、レファレンスの事例などをテキスト化し、集約していくという取り組みを始めた。集まったデータはようやく4万ファイルを超え、蓄積された電子データを利用していくことで、個人の資質だけではなく組織としてレファレンス能力を向上させていくことを目標にしている。「地元の篤志家から寄贈された郷土資料が当館の基礎資料になっている。深い知識と技量を持つ博物館学芸員の協力を得ながら貴重な資料を後世に伝えるのが我々の役割。責任をもって対応していきたい」という。図書館は誰もが利用できる施設だからこそ、実は求められるスキルは幅広い。本に関しての知識はもとより、検索の技術、子どもへの心配り、貴重な資料の取り扱いや学芸員的な視点での保管・保全など、さまざまな対応力が求められる。

司書として研鑽を積むことは大切と話す小林さん。「図書館は行政と市民とを結ぶコーディネーター。たくさん利用して図書館を役立ててください」と笑顔を向けた。

第65回柏崎市美術展覧会 市展 2022 10.1(土)~10(月・祝) 入場無料

お問い合わせ
柏崎市立図書館（ソフィアセンター）
0257-22-2928
開館　月～金：午前9時～午後7時
　　土日祝：午前9時～午後5時
休館　第3日曜・年末年始など